

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数ともに平均正答率が全国を上回った。
 ○国語科では、「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも上回っているが、短答式の問題に限定すると2.4ポイント下回った。
 ○算数科では、「思考・判断・表現」で全国平均を2.2ポイント下回った。領域で見ると「データの活用」で全国平均を0.3ポイント下回り、記述式の問題に限定すると3.3ポイント下回っているなど、部分的な課題も明確になってきている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が既習を生かしながら見方・考え方を働かせ、自ら問いを見いだすことのできる教材や学習活動、発問などの手だてを工夫していく必要がある。（既習事項の確認、教材開発、導入の提示の工夫等）
 ○児童が自分たちの予想を基に学習計画を立てる場面を重視し、見通しと意欲をもって追究できるようにする手だてを講じることが必要である。（既習事項や生活経験の想起・活用、適切なヒントの提示、対話的な活動の充実等）
 ○児童が課題を意識し、教材や資料等を自ら読み解き、考えを構築していく指導の工夫について充実が必要である。（資料の精選、協働的な学びの充実、選択場面の設定、一人1台端末の活用）
 ○児童の考えを広げ深めるための言語能力の育成及び対話的な活動の充実が必要である。
 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○児童の心を揺さぶる授業を実践し、学ぶ楽しさを体得させる。
 ○基礎・基本の定着を図り、主体的に学ぶ意欲を向上させる。
 ○「読み解く力」の育成を全教科の学習過程に取り入れる。
 ○「板橋区授業スタンダードS」を実践し、発達段階に応じた自己調整学習を推進する。
 ○プロセスを重視した探究的な学習、体験的な活動により、STEAM教育の基礎を培う。
 ○一人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。
 ○国際理解教育を推進し、多様性を受け入れ尊重する心を育てる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○導入を工夫することで児童の問題意識を喚起しめあての設定につなげる。 ○教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる資料や発問を工夫するとともに、指導と評価の一体化を図る。 ○見通しと振り返りを重視し、児童が学習方法を選択できる場面の設定する。 ○必然性や目的のある対話的な活動を充実させる。 ○「板橋区授業スタンダードS」を実践し、発達段階に応じた自己調整学習を推進する。	一人1台端末の長所を積極的に生かした実践を積み重ね、それを共有し広げる。 ○個別最適な学びの充実に向けた活用 ・自己の課題やベースに応じた追究、思考、表現活動の充実（調べる、スライド等にまとめる、課題やまとめる方法の選択、個に応じた課題の提示、ドリル学習等） ・学びのプロセスの蓄積と振り返り（記録する、振り返る、修正・調整する） ○協働的な学びの充実に向けた活用 ・自己の学びや考えを伝え合う（プレゼンテーション、データの交流等） ・対話を通して考えを深める（スライド、FigJam、共同編集・作成等） ○各教員の実践の共有、交流促進	○総合的な学習の時間を核とし、地域や社会、実生活における人・もの・ことを題材とし、カリキュラム・マネジメントを図りながら探究的な学習を充実させる。 ○自らの課題を見付け、解決する力を育成するとともに、協働的な学習等を通して学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○縦割り班活動や児童主体の行事を通じた交流活動により、自治的能力の向上を図る。 ○「学級活動」を重視し、合意形成やルールメイキングに取り組む。 ○地域の方々との交流により板橋区の良いさを体感し、「これからの板橋を語れる子」を育てる。 ○「M34学びのエリア」として、小中9年間の系統性・継続性を踏まえた教育活動を実践する。	○全校体制での生活指導を確立し、豊かな人間関係と規範意識を育む。 ○いじめの早期発見・早期対応を組織的に行うとともに、児童に適切な援助希求行動を促す。 ○「栄養・運動・休養（健康三原則）」をバランスよく指導し、目標をもった体力向上を図る。 ○「考え議論する道徳」を実践し、共生社会の実現に向けた人権感覚を養う。	○校内委員会を核とし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を整える。 ○「個別指導計画」「学校生活支援シート」に基づき、一人一人の特性に応じた学習面・生活面での配慮を行う。 ○一人一台端末を活用したオンライン支援により、非常時でも学びを止めない環境を整える。